

昔は、「産湯」と「乳母」で 発達障害を防いでいた

お産ルネッサンス

久保田史郎のあゆみ（麻酔科から産婦人科へ）

体温管理にうるさい麻酔科でトレーニングを受けた久保田は生まれたばかりの赤ちゃんを見て、「赤ちゃんは寒さに震えている」と直感した。日本の分娩室は赤ちゃんに寒過ぎると考え、体温の研究を始めた。日本の分娩室の温度は、大人に快適な25℃前後に調節されている。そこで出生直後の赤ちゃんを子宮内温度（38℃）よりやや低い34℃に温めた保育器に2時間入れると赤ちゃんの顔色は良くなり、両目を開け、指を開き、指しゃぶりを始めた。生後1時間目から糖水を飲ませても上手に飲み、嘔吐も出なくなった。1983年の開業以来、母乳が十分に出るまでは母乳分泌の不足分を人工ミルクで補足した。すると、脳に障害を遺す低血糖症と重症黄疸の赤ちゃんが姿を消した。我国の伝統的な産湯は低体温症を、乳母は赤ちゃんを飢餓から守るのが目的だったと考える。久保田は発達障害の増加を予測し、34年前から予防策について研究してきた。お産に予防医学の重要性を訴える。

講師
久保田 史郎 氏

<略歴>

1945年：佐賀市富士町下無津呂で出生
1963年：県立唐津東高卒業
1970年：東邦大学医学部卒業
1970～1972年：
九州大学医学部・麻酔科学教室
1972～1980年：
九州大学医学部・産婦人科学教室
1980～1983年：
福岡赤十字病院・産婦人科
1983年4月：
久保田産婦人科麻酔科医院開業
2017年7月：閉院
2017年8月：株式会社 風(かぜ)に
久保田生命科学研究所を設立

<資格>

・医学博士
・日本産科婦人科学会専門医
・麻酔科標榜医
・日本超音波医学会認定超音波元専門医

主催：NPO法人高遊外壳茶翁顕彰会
第16期「佐賀おもしろ学講座」

◆お問い合わせ◆

肥前通仙亭

佐賀市松原 4-6-18

TEL/FAX 0952-65-2152

HP: [高遊外壳茶翁顕彰会](#)

検索

